

社会人と語る会を開催しました!!

11月3日(金)に2年生対象に「社会人と語る会」が開催されました。12分野で活躍する本校卒業生の方々に来ていただいて、仕事とは何か、社会とはどういう場所か、と様々に語っていただきました。今年、講師からの“問い”に対してディスカッションをする時間を取り入れたことで、例年にも増して「社会に出るために、今何をすべきなのか」といったことを深く考える機会となったようです。

機械・電気・電子系：
 今回の講義を聞いて、科学研究者に対するイメージが変わりました。研究は一人で寡黙にするものではなく、世界の様々な人とコミュニケーションをとってするものだと分かり、支え合ってできるものだと知って、やはり英語を勉強しなければいけないと思いました。

公務員<文>：
 AIの能力が2045年には人類を超えるという話が恐かったです。その時自分が存在価値のある人間だと証明できるような職業についていたと思いました。野崎さんの最後の「自分は何が好きで、自分は将来何になりたいのか考えること」「自信を持つこと」「感謝の気持ちを忘れないこと」を大切にするという言葉が印象的でした。



国際関係：
 グローバル人材とは自国をよく理解している人だと、大砂さんがおっしゃった時はすごく衝撃的でした。今、どんな仕事でもグローバル化の影響を直に受けていて、異文化理解が特に重要視されているのだと思いました。

建築関係：
 私たちが身近に感じている“建物”だけど、それが造られる過程には様々な職種の人や工程が含まれていて、面白いなと感じました。また、ディスカッションを通して建築の面白さや、難しさを知ることが出来ました。

先輩から学ぶプレゼン術を開催しました!!

11月3日(金)に1年生対象に「先輩から学ぶプレゼン術」が開催されました。本校から難関大学へと進学した13名の先輩に来てもらい、大学生活や将来のビジョンを内容としたプレゼンをしていただきました。生徒達にとって、先輩のプレゼン方法や、前向きに努力する姿から多くの学びがあったようです。

「報われない事を恐れず、今できることを精一杯やる」という言葉が心に残ったので、大学や将来について少しずつ考えて、自分がやるべき事をやっていきたいです。自分の能力を知り、自分は今何をやりたいかを明確にしていくことの大切さを学びました。



4人の方に共通して、写真や図の活用、クイズ形式の採用など、プレゼンの随所に聞き手を意識した工夫が見られた。経験や知識の積み重ねが将来につながるものであり、毎日の学習を大切に、選り好みせず、まんべんなく学んでいきたい。



将来のビジョンをはっきりと持っているのがかっこいいと思ったし、今はまだ漠然とした目標でも、今は今の自分らしく頑張って、大学生になった時に先輩方のような姿になれたらいいなと思いました。

～座談会の様子～



放課後には、先輩にもう少し聞きたかったことや、プレゼンを聞けなかった先輩に質問する「座談会」を開きました。総勢63名が参加し、大学生活や高校の時の学習方法など、より詳しい話を聞かせてもらい、会は大いに盛り上がっていました!!

京都大学出前講座を開講しました!!

10月13日(金)にアジア・アフリカ地域について研究をしている、京都大学大学院生にお越し頂き、出前講座を実施しました。ウガンダでの調査の中から『名前』をテーマにした講演では、参加した1・2年生37名にとって、遠く離れたウガンダと日本の文化の違いに驚き、異文化理解を身をもって体験する機会になったようです。

ウガンダという国では「貧乏さん」や「まるで王様さん」など、日本語で聞くと、違和感を感じるような名前が結構あるということに、一番衝撃を受けました。その名前が付けられた裏には、名づけた人なりの経験や経緯があるということには、なるほどと納得できました。



今回ウガンダの名前について聞いてすぐは信じられなかったし、不思議に感じたけれど、それは自分が日常で起こっていることを当たり前だと感じてしまっていたんだなと気付いた。これからは自分の身の周りで起こっていることが当たり前なのだと思う、世界など幅広い視野をもつようにしていこうと思った。



▲ウガンダについて説明する講師の山崎さん

グローバル体験報告会をおこないました!!

9月15日(金)にグローバル体験報告会を行いました。4名のプレゼンターに、今年の夏休みに行った自身の留学体験を語ってもらいました。参加した生徒は、同級生や先輩たちの留学経験談を聞くことで留学を身近に感じ、一歩踏み出す勇気があれば、世界は変わることに刺激を受けていたようです。

プレゼンター

- 2104 川崎 華さん(カナダ)
「そうだったのか!カナダ」
- 2121 南 里佳さん(オーストラリア)
「世界の見え方が変わった」
- 2906 窪田 悠夏さん(オーストラリア)
「自分を知ることができた留学」
- 1802 恵比須 陽希さん(ネパール)
「ネパールで学んだ積極性の大切さ」

留学でこんなに考え方や視点が変わるんだと思いました。本当に大切なことは英語力や勉強ではなく、自分の気持ちや行動力だと感じました。



留学をした理由が明確で、将来に見通しが持っていてすごいと思いました。やはり実際に外国に行かないと分からないこと、感じられないことがあるのだなと思いました。

自分のしたい事に向かって行動できるというのは素晴らしい事で、自分も積極的に行動していきたいと思った。

グローバルのススメ ~グローバル×私~ File4. 米林 公人 先生(英語)

第4回目は米林先生です。先生の『グローバルな体験』とは…?

“global” is …?

「グローバル×私」を書くにあたって、はて、「グローバル」って何だっけと思い、辞書を引いてみた。英英辞典のOxford Learner's Dictionariesを引いてみると、1. covering or affecting the whole world 2. considering or including all parts of somethingとある。何ということだ。1を読んで、「私」が全世界を網羅したり、全世界に影響を与えたりはしないと思いがっかりする。「私」は「グローバル」ではない。というか、「ヒト」は「グローバル」足り得るのか?こんな文章を書くことを引き受けなければよかった…。しかし、2を読むと、あるコト(モノ)を形作るパーツ全てを考慮に入れることとある。ちょっと待て、「世界」を形作る一部に「私」は入っていることは、「私」にも分かる。あれだ、『鋼の錬金術師』にも出てきた「一は全、全は一」だろ?ということ、私」は「グローバル」なのか???

…と、というようなことを考えました。私にとって「グローバル」とは、2から始まって1へと向かっていけるマインドを持つことなのかなと、今は考えています。一つ一つのコト(モノ)、1人1人の行動が、ぱっと見ても分からないけど、実はすべてがつながって何かを作り出していることを常に意識し、その考え方が、あるいはその考えから生まれた何か世界に影響を与えていることを知る。泉丘の生徒には、このことを単なる知識として得るのではなく、体験し、考え、そして行動してもらいたい。環境問題や経済格差の問題、持続可能な社会の在り方やA1とヒトの可能性など、知識として知っているだけではなく、大学で学んだり、留学して見識を深めたり、その解決に向けて行動する人になってほしい。その時に、一つの道具として役立つよう英語を一生懸命に教えることが、「グローバル×私」だと思います。みなさんも、自分にとってグローバルって何だろうと、問いかけてみてはどうですか?

